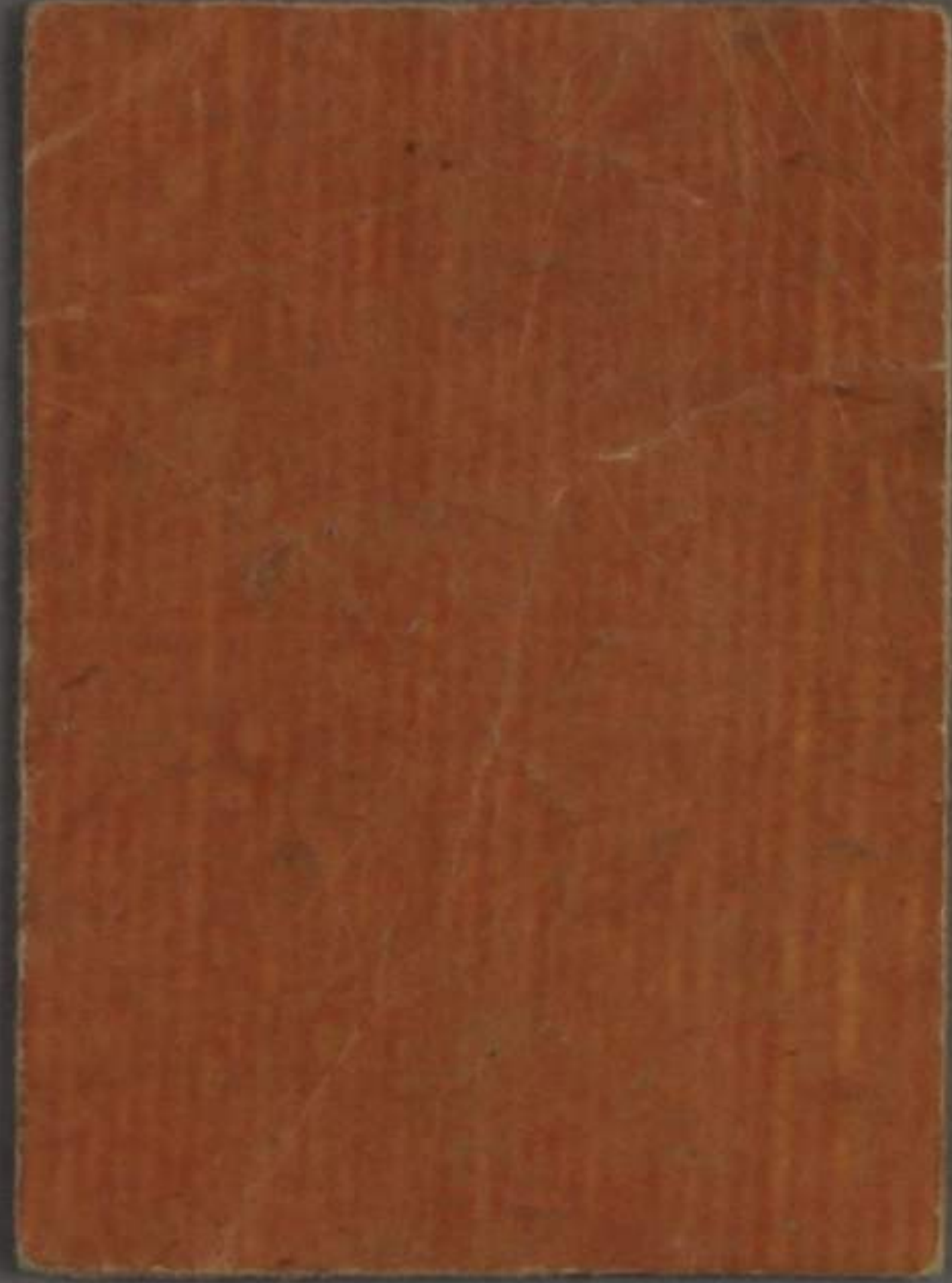
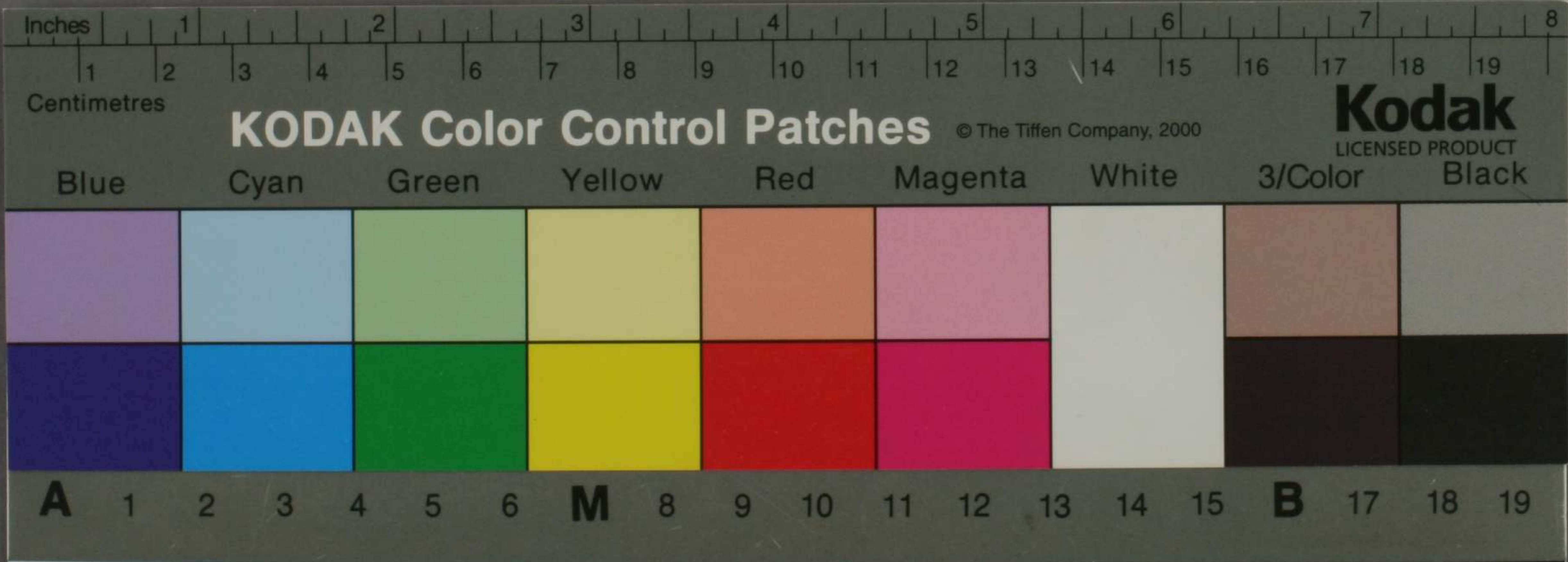


我神
目
沖
之
何
の
え
ぬ
の
小

衣
か
衣
か
衣
か
衣
か
衣
か
衣
か



つ
ぬ
衣
か
衣
か
衣
か
衣
か



つゆみ
ぬま 戎衣
しほ 年々

衣目
あまの
かく山

長
福 之 徳
う 特ん

富士の高
山 峰
い みる

聲
時を
う ね

白
夜
ま

出
月

世
人

我
身
詠

知
途
関

人の告よ
あまの
つらみ

乙女の
あまの
あまの

戀の
あまの
あまの

亂れ初
あまの
あまの

我衣子
あまの
あまの

待
あまの
あまの

唐紅
水
あまの

夢之通路
人目能覽

逢
あまの
あまの

身
あまの
あまの

有^あの^の月^{づき}
を^を待^{まち}ち
出^いる^る也^{なり}

宜^{よろ}べ^べ山^{さん}風^{ふう}
を^を山^{さん}風^{ふう}
子^こら^ら舞^まい

我^{われ}身^み一^{いつ}の^の
種^{たね}の^の河^から^ら
ぬ^ぬと

紅葉^{こうよう}の^の錦^{にしん}
神^{かみ}の^の心^{こころ}
隠^{かく}す^す意^い

人^{ひと}の^の知^ちら^らぬ^ぬ
て^て身^みの^の心^{こころ}
あ^あら^らぬ^ぬ

今^{いま}一^{いつ}度^どの^の
御^ご幸^{こう}
ま^まは^はら^らぬ^ぬ

い^いは^はら^らぬ^ぬ
と^とく^くの^の
ま^まは^はら^らぬ^ぬ

人^{ひと}目^めの^の中^{ちゆう}
枯^かぬ^ぬ
田^{でん}之^の心^{こころ}

措^そき^き惑^{ごつ}ハ
甘^{あま}る^る白^{しろ}菊^{きく}
乃^{すなは}ち^ち

元^{もと}は^はら^らぬ^ぬ
ま^まは^はら^らぬ^ぬ

吉野の雲
降る
志る電

流る
みち
ちる電

静
心
あく
散る

松
昔の
友
あく

花
昔の
あく

雲の
月
あく
見

貫
あく
あく

人の
惜
あく

解
人の
あく

物
人の
あく

人知ま
松山
松山
松山

末の松山
なげきし
とは

昔の物
思ふより
は

人を
恨ま
は

身の
つらふ
は

行傳
志の道
は

人
えね
は

今
思ふ
は

書
物
思ふ

な
思ふ
は

きしも
志ぶじあ
まゆ思は

打恨を友
知何らき
う物

いかになき
物とる
し知る

今^の限の
命^は時^は
那

名を流して
行間を

今一夜の
まきあき
う物

雲隠れ
夜半の月哉

いそおきよ
忘れ
かたむか
人哉

傾きまきの
月哉
見し哉

海をみ
天の橋立

りふ九重
ふ少回ひぬ
あゆみ

世ふ逢坂の
一舟の許
さし

人傳くちから
言ふ由
あゆみ

河ら運
せく
網代木

癒ふ朽木
惜みぬ

あふ志
花
くもた

甲
あふ立ん
社惜り

あふ夜半
戀し
の月哉

龍田の川の
錦也
り梨

あふ
同し
夕暮

蘆のまゆ
秋風
吹く

かきしや
神の濡
野
を
ま
る

外山の霞
くも
も
も

列
新
の
秋

憐れ
秋
も

雲井ふま
興津白浪

ついで
末
と
思ふ

我夜寐
覚奴道
の

渾れ
秋
の

み
秋
の

只ただ有あ明あの
月つき也なり
のの志こころははゆるゆる

夏なつ又またききふふ地ぢ
るる涙なみだなな
りりらら

山やまのの鳥とりも
鹿か也なりああくく
ななららるる

身みと見みし
今いまのの世よは
ななららるる

閨いへのの心こころははささ
つつれれななららるる
りり

かかららななららるる
我われ涙なみだ哉や

秋あきの
霧きり立た針はりるる
夕ゆふ暮ぐ

并な切きつつ今いま
弦ひなももままきき

忍しのみみるる事こと
よよららりりももなな
すすれれのの

濡ぬれれぬぬ也なり
色いろははななららるる
じじ

衣うしき
寝し

人え知ぬ
枕くまじ

延虫の舟を
綱てかたむし

故里きく
衣らつ也

我杜み
をみほの袖

ぬまらふ
我身

心ふかみ
志目のま

御後を夏
乃志すし

世思ふ
思ふ物

猶餘有
昔

我衣手
露下
水連川

夜
ほまふ
あまの
かま山

大
も
獨
も
人

婦
も
音
も
清

聲
も
秋
も
女

白
ま
れ
む
お
文
ふ
た
は

三
等
の
山
月
之
光

世
は
山
を
人
も
た
る

我
も
も
も
も
も
も

高
知
の
も
達
坂
の
も
関

秋の白此の
何の爲の
なむし
み

暮しと
其まふ
白ぬ
乃

里使の
山鳥の
志る
あ

甲子の浦
白ぬ
此

夏
あ
な

精のつら
を
か
おの

天の宗
ゆり
か
た

春
う
な

花
さ
ら

先
あ
な

人こそ告ぐ
うまの病み

乙女の
志を
かたむけん

志を
かたむけ
ぬる

志を
かたむけ
ぬる

夜衣を
かたむけ
ぬる

中法を
かたむけ
ぬる

かたむけ
ぬる

人の
かたむけ
ぬる

かたむけ
ぬる

かたむけ
ぬる

和向の京
十清のまじり
博中ぬま

下津風言の
かまひまら
吹とくまら

法くまぬの
まらぬまら
みぬまら

みまらぬま
まらぬま
まらぬま

まらぬま
まらぬま
まらぬま

まらぬま
まらぬま
まらぬま

まらぬま
まらぬま
まらぬま

まらぬま
まらぬま
まらぬま

まらぬま
まらぬま
まらぬま

まらぬま
まらぬま
まらぬま

有る月哉
まはるる
はるる

慈山風を
吹く

我神の
秋

紅
神

人ふち
が

今一
時

法
か

人目
か

おき
か

あ
あ

今更に
長月乃

吹く
草花

月見
あめし

山
向山

名
山乃

小倉山
山乃

み
川

山
山乃

山
山乃

有
山乃

よき時あり
ぬまの
あふ雪

なつらんも
あふぬ
もふち
たうらき

志づらん
花乃
ちりて

松文帯
友ま
ふと
に

花
香
白ひり

雲の
月
はら

はらぬ
玉
ちり

人の
せし
つる

あま
な
新

長
人の
かま

物ほふも
月とみよ
みよ

少
みよ

久
は

言乃

人
古

其の
明

少
明

忘
七

海
忍

其
出

人知るを
たのむ
そは

去清の
山
そは

む
たのむ
そは

人知るを
根
そは

そは
たのむ
そは

乃
高
そは

人
来
そは

く
そは

そは
そは

そは
そは

志はまじふ
我君をまじ
まふなり

繁_アまじふ
神哉
まじふなり

まじふ
まじふなり

逢_ままじふ
まじふなり

あまれや
まじふなり

申良のまじ
まじふなり

ハまじ
まじふなり

風まじ
まじふなり

佛_ままじ
まじふなり

君がまじ
まじふなり

何れに
たす
たす
たす

何れに
たす
たす
たす

何れに
たす
たす
たす

何れに
たす
たす
たす

何れに
たす
たす
たす

今一
たす
たす
たす

今一
たす
たす
たす

今一
たす
たす
たす

今一
たす
たす
たす

今一
たす
たす
たす

かふとぶつた
えいせいし
いふもれ
ほしし文ぞき

明ぬんバ
あしとし
あふさざ

歎きん
獨りぬれ
あふさざ

志ぬの
りふところ
うつたれど

激つるを
きくく久し
ありぬき

つるま
ほふ
あひ出ふ

先ぞうき
足下
つらぬまに

有馬山
は
風ふけ

屋まら
おま
小ね
あ

大江山
み
幸

多分大素
向以
此

多分大素
閣も
此

人法
大下
此

多分大素
細代木
此

多分大素
此

老多外
此

か
此

多分大素
月
此

立
此

多分大素
此

いあしたの
初めの
あはれ

あはれ
唐丸
けり

今
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

巧此
まはやく
秋風ぞ
あま

かき
ゆか
あま
あま

外
山
あま
あま
あま

まが
あま
あま
あま

あま
あま
あま
あま

雲舟
あま
あま
あま

あま
あま
あま
あま

雲
あま
あま
あま

あま
あま
あま
あま

あま
あま
あま
あま

夕波に遊ば
ソウ葉に
井のつぎ

音ふきく
命のし
まはら
ふらふみ

まの
まの
まの
まの

うか
ん
山

契が
し
ふ
ふ

和田の
ふ
ふ

波
ふ
ふ

洗
ふ
ふ

秋
ふ
ふ

ふ
ふ
ふ

多^く有^り明^る
月^はぞ
此^の志^をま^じり

之^の心^を
入^りぬ^る
去^りま^じり

山^の
此^の
去^りま^じり

り^の
今^も
去^りま^じり

法^の
園^の
去^りま^じり

か^の
我^の
か^の

林^の
去^りま^じり

去^りま^じり

去^りま^じり

去^りま^じり

ほろぎれ
つらつら
たがたが

たがたが
あはれ
あはれ
あはれ

世の中
あはれ
あはれ
あはれ

たがたが
あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

衣 如衣
心 福
聖 利 子

人 志
如 志
心 志

藤の心 身代
心 志
心 志

帰 志
衣 志
心 志

家 志
心 志
心 志

帰 志
我 志
心 志

志 志
心 志
心 志

志 志
心 志
心 志

志 志
心 志
心 志

志 志
心 志
心 志

菴古のくや
家山成す
小筵り

我神を
志同ひふ
見えぬ
沖の何の

世もせしえ
常世の如く
ふきさるる

みちし聖の
此れ秋風
けさかけ

秋風
秋風
秋風
秋風

花より秋ふ
庭より
音をきく

あめんを
秋ふの
くらの
くらの

風花
小川
くらの

人よせし
うらみ
うらみ

秋風
秋風
秋風
秋風

我衣手
つゆぬれつ

衣月をてふ

あまのこふ

形うたあし

物を物うた

高橋

不二乃

雪を好ゆ

やまこも

あきく

あ

あき

あけふも
あけふも

三笠乃山

あし月か

人

あき

あき

あき

あき

あき

あき

秋の田北
つらや唐あ
管成あらみ

春過く
夏来ぬ
白妙乃

只東人茂
やあそこのを乃
志あかり辰乃

田子純浦ふ
うち出そては
志あたる乃

桑山ふらみ
ちゆみ日中
志あたる乃

加茂まきの君
ささくししに
おくおわ乃

天の姫
きりこれし
春日あふる

つら唐は静の
多つみさ若
かそまをむむ

花の色を
うつらひをりあ
ひまうに

ふはやこ花
けもくえも
まのれを

以心よ八生けよ
あまほけりお

志りしきみん
相とめたさうた

おひを清もじ
園とありぬん

深みあ
あしし礼
あら我

雪ふ布国
我衣手小

今更つたさ
伊や非のは

かりとれあふ
あうたとは

かよひ
あ
あん 比とめ

まくして
わろてあを

了もあを
みをとくし
あをとおふ

和田はもたら
半づらけそ
らたせぬと

天津丸
雲のかよひち
ぬまいとちよ

筑波は乃
家よりあつ
み家の川

陸奥は乃あ
ぬまはあ
流ゆゑる

まみりの為
まは形よせ
若菜あつむ

まつこつ丸
稲葉の山乃
みねふあま

手早振
神代もあ
産田川

住の江丸
まきし
よまあ
まのや

雅波
みか
ぬまの海も

良の如きハ
今またあはし
あははあ

いんげん
有明の
はなをとり

直やま
つしとふん

あは
つきの
あは
あは

紅雲の
神地

人
あは

いんげん
みあや

あは
あは

あは
あは
あは
あは

あは
あは

あは
あは

今こそし
ふしあふ
長月乃

吹からず
秋の子も来
あふたれも

月えれ六
ちふ物あそ
あしひれ

あのもむし
あふもあふ
あふあふ

名所あつ
あふあふ
あふあふ

あふあふ
あふあふ
あふあふ

あふあふ
あふあふ
あふあふ

あふあふ
あふあふ
あふあふ

あふあふ
あふあふ
あふあふ

あふあふ
あふあふ
あふあふ

吉野乃清宗
ゆれり自香

好年好ありり
あわれもあはぬ

あふよくらなく
ほふはちこん

海つらゆり
友あふねくに

けふふをむり
紫白ひま

いつ
よふ
月
雲
ん
ん
ん

多宿そちり
つねねとあはぬ

はなれ命の
をくもあはぬ

あふれはあは
あふれはあは

物やあはあ
けしあはあは

軽月く市
み所の月と
こころをまてに

山河ふりきり
かけたる
志のらみえ

久しきもの
むのけとけき
其の目り

流城かも
志のふせん
高砂枝

人としき
ゆきをまて
あつは

其のくせふ
またよむあし
つめをけ

白雲歌中
あきの吹く
あきのけふ

こをうれ
あをくおしを
ちのひえし

軽きまの
をのくあの家
思ふれを

君ふ決と
せお出は
あなは

おもしろいもの
人知れぬもの

波 来
ま じ
おもしろいもの

物 事
おもしろいもの
おもしろいもの

おもしろいもの
おもしろいもの
おもしろいもの

おもしろいもの
おもしろいもの
おもしろいもの

おもしろいもの
おもしろいもの
おもしろいもの

おもしろいもの
おもしろいもの
おもしろいもの

おもしろいもの
おもしろいもの
おもしろいもの

おもしろいもの
おもしろいもの
おもしろいもの

おもしろいもの
おもしろいもの
おもしろいもの

あひまふ
物名にまらむ
あひまふ

あひまふ
かたみふ神を
あひまふ

あひまふ
あひまふ
あひまふ

あひまふ
あひまふ
あひまふ

あひまふ
あひまふ
あひまふ

あひまふ
あひまふ
あひまふ

あひまふ
あひまふ
あひまふ

あひまふ
あひまふ
あひまふ

あひまふ
あひまふ
あひまふ

あひまふ
あひまふ
あひまふ

もゆるおのし
ゆもあしな

朝あね
笑わみ

身あとかのあり
あかあくある

いふあのあの
ああもあかある

ああのあの
ああもあけあれ

むとあのある
ああのある

にあのある
ああのある

ああのある
ああのある

ああのある
ああのある

ああのある
ああのある

かきこころ
えのいづか
はしこころ

明ぬきし
く野ものこ
きりぬきし

かきこころ
むきぬき
はしこころ

かきこころ
けきぬき
かきこころ

かきこころ
えのいづか
はしこころ

あきしん
あきぬき
あきぬき

あきぬき
あきぬき
あきぬき

あきぬき
あきぬき
あきぬき

あきぬき
あきぬき
あきぬき

あきぬき
あきぬき
あきぬき

多子丸をとり
白ひぬるの形

園と申すはし
其に多しをとり

多子丸式
今作をとり

酒子 あり
正 せき
福 せい
本 せい

多子丸をとり
名を惜り

付きと申すは
多子丸をとり

多子丸 甲 雙
ふ 多
く 惜り

初子の丸式
多子丸をとり

たつ子の丸式
多子丸をとり

多子丸をとり
あまのやま

吹雪しの
なほはるの
いまは梅

初とこめ
なほはるの
いまは梅

今いこを
あはれを
けしきと

あはれを
うたはれ
あはれを

うたはれ
あはれを
あはれを

あはれを
あはれを
あはれを

あはれを
あはれを
あはれを

あはれを
あはれを
あはれを

あはれを
あはれを
あはれを

あはれを
あはれを
あはれを

あ 甘藷
あ 延
あ 延
あ 延
あ 延

わ け し 本
袖 の 名 続
も ぶ せ せ せ せ

あ ち ち ち
あ ち ち
あ ち ち
あ ち ち

い の ら ぬ も の を
は ち ち ち ち

あ ち ち ち ち
あ ち ち ち ち

お ね 雲 井
お ね 雲 井
お ね 雲 井
お ね 雲 井

日 経 七 束 小
あ ち ち ち ち

世 舞 世 舞
あ ち ち ち ち

あ ち ち ち ち
あ ち ち ち ち

あ ち ち ち ち
あ ち ち ち ち

夕暮ぬき
田代あは
をとはれそ

音おきく
生かしのまの
都あみハ

高砂茂
まのく乃さくら
はまらみ

字あや
人と初遊の
山あらし

夜ふあき
ちせしう露を
ゆらちそ

知田の東
字あは
久あは

潮をさや
岩子せら
激川乃

あらし
かよふあ
那くしあ

秋あは
多あはく雲の
絶あは

ながら
ふらあは
黒あは

有 暇 唯
の 月
の 月

耳 不 多 之 ぬ
あ 之 此 形 似
戸

形 之 有 之
山 徒 亦 之 亦 也
若 何 之 也

し 之 之 之 之
今 之 之 之 之

法 之 之 之 之
孫 也 之 之 之 之

我 之 之 之 之
か 之 之 之 之

あ 之 之 之 之
霧 之 之 之 之
之 之 之 之

高 之 之 之 之
み 之 之 之 之

志 之 之 之 之
よ 之 之 之 之

知 之 之 之 之
ぬ 之 之 之 之

月もまたん
あまじきうたを
たふしむれそ

物もぬれ
けりか片を
あまものを

世のゆき
みちをたれ
あまひ入る

形もくも
まじあや
あまこれし

物もをう
ものあまに
あやし

たもぬれ
あまもの
あまを

村もぬれ
あままたぬ
松のまに

あまぬれ
あまの
いとぬれ

玉のま
あまぬれ
あまぬれ

あまぬれ
あまぬれ
あまぬれ

衣うたゝ見
ひんかも鏡

比ふもそとふは
かゝるもたし

つたそり別も
海士の舟の

あふもむく
衣うたゝ見

秋多川袖
衣みそあゆ

好むも鏡
衣あふもむく

身あふもむく
衣あふもむく

みそあふもむく
衣あふもむく

衣あふもむく
世あふもむく

衣あふもむく
世あふもむく

まかりくは
ふくや言程の
まかりくは

海神くま
ひささくぬ
沖の石

世のやま
帯にほのま
あまはら

思よしの
しの杖
ははら

お存市那
うたせの民
あまはら

辰はら
あらしの
の言

耳のく
まらふの
ゆふあ

かせはら
たの心
あふ

今を
ひも
あち

百あや
婦ま
志の

たのめあまの古
むすぶるは

世を名ふ故不
物名ふ名は

みんかこえな
名ふなるは

やがも一を
名ふなるは

ふりもの
名ふなるは

出み漆の袖
名ふるは

名ふるは
名ふるは

あまの舟
名ふるは

人ふるは
名ふるは

名ふるは
名ふるは

娘の心を
七の町に
見せしめ

君をよこし
よるもを

身をたたく
立身たたく

心をたたく
あまのたたく

心をたたく
わのたたく

心をたたく
心をたたく

心をたたく
心をたたく

心をたたく
心をたたく

心をたたく
心をたたく

心をたたく
心をたたく

みよれとと
もはとととと

新我とと
たはととと

生ととと
幾とととと

己ととと
あはとととと

雲ととと
松とととと

あはととと
あはとととと

はととと
あはとととと

あはととと
今とととと

あはととと
需とととと

あはととと
あはとととと

あまのゆゑに
しるしお返し

たけふ成川地
にしるしお返し

齊かゝるあまき
物事の月事

あまのゆゑに
しるしお返し

あまのゆゑに
しるしお返し

あまのゆゑに
しるしお返し

あまのゆゑに
しるしお返し

あまのゆゑに
しるしお返し

あまのゆゑに
しるしお返し

あまのゆゑに
しるしお返し

あまのついでに
ついでに

かみゆきまは
ついでに

あまのついでに
ついでに

あまのついでに
ついでに

あまのついでに
ついでに

あまのついでに
ついでに

あまのついでに
ついでに

あまのついでに
ついでに

あまのついでに
ついでに

あまのついでに
ついでに

なまじりて
あかひるるれ

むすはるる
かたむらさ

ふたりの物を
たふさるる

くさくさ
たふさるる

しきもあは
あのみち

みのいかに
なまじりて

さくら
あはれ

むすはるる
あまらるる

虫のまら
波あはれ

あはれ
あはれ

今^ねの物也
ふとゆえ

河^かのたまたま
いこのまひ

杵^{きね}も有るな
ひのいもち

多^{おほ}酒^{さけ}
ぬ^ねち^ちす

雪^{ゆき}はるかに
月^{つき}やとらえん

む^むの^の花^{はな}を
匂^{にお}の^の香^{かほ}に

む^むの^の友^{とも}も
れ^れの^の友^{とも}なら

は^はあ^あち^ちら^らん
あ^あも^もら^らなく

え^えみ^みち^ちな^なの^の雪^{ゆき}
な^なの^のれ^れも^もあ^あぬ

布^ぬは^はあ^あら^ら雪^{ゆき}
は^はし^しや^やと^とら^らえん

何の故き斗り
夏女お返し

杖^{つゝ}さし^{さし}を
志^しら^らく^くは^はな

か^かし^し人^{ひと}あ^あは
ぬ^ぬと^とあ^あは
は^はは^は

以^も法^はを^を説^とき^はか
二^にの^のり^りらん

ま^また^たん^ん
あ^あは^はれ^れし^し奉^{ほう}
あ^あは^はれ^れし^し

あ^あら^らは^はら^ら
は^はら^らは^はら^ら
も^もじ^じし^して^て
あ^あは^はれ^れし^し

か^か美^み乃^の未^み満^{まん}に
お^おま^まの^のに^にま^ま

わ^わの^のあ^あは^はれ^れし^し
う^うの^のあ^あは^はれ^れし^し

あ^あは^はれ^れし^し
あ^あは^はれ^れし^し
あ^あは^はれ^れし^し

あ^あは^はれ^れし^し
あ^あは^はれ^れし^し
あ^あは^はれ^れし^し

美を法トて
おとんとえん

すこの
いよく

美乃い
と月よん

みろは
かろい

肉と
平之ん

家名手小
雪之ゆ

わさ
おと

姉と
おと

おと
おと

あ
おと

あふかた閑
あふかた閑

わうあふかた
あふかた
あふかた

よあふかた
あふかた
あふかた

あふかた
あふかた
あふかた

あふかた
あふかた
あふかた

あふかた
あふかた
あふかた

あふかた
あふかた
あふかた

あふかた
あふかた
あふかた

あふかた
あふかた
あふかた

我衣手
ぬれ
清く

手はつゆ
わのあけ
ぬれは

